

第70回計画推進評価部会における意見と対応(点検報告書(素案)で反映済み)

NO	関連項目	意見	対応	該当頁	点検報告書(案)	委員名
1	基本構想の点検	「(イ) 多様な文化が共存する地域社会」のところに、外国人登録者数だけでなく「多様な文化が共存する」との実態に関する記述があった方がよいのではないか。	「(イ) 多様な文化が共存する地域社会」に出身地のデータ等を追記しました。	P7	出身地数をみると、近年は160カ国前後で推移しています。そのうちアジア出身者は、2013(平成25)年度に37カ国129,810人で80.8%となっています。	朱委員
2	基本構想の点検	県内製造業の事業所数の推移について、全国との比較で神奈川県の特徴がよく分かるように、全国と比較できるようにしたらどうか。	全国の状況に関する記述を追記しました。	P9	製造業の事業所数は全国的に長期的な減少傾向が続き2010(平成22)年には、全国で224,403事業所となっていました。2011(平成23)年には微増し233,186事業所となりました。しかし、2012(平成24)年以降は再び減少し、2013(平成25)年には207,439事業所となっています。	原委員
3	基本構想の点検	子どもの貧困率の算出方法が不明である。	子どもの貧困率をはじめ、データ等の説明を追記しました。	P15	相対的貧困率…一定基準(等価可処分所得の中央値の半分の額)を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合  (その他、分かりにくい表現に注釈等を追記しました。)	山本(佳)委員
4	基本構想の点検	政策分野別の順番が、なぜ「エネルギー・環境」から始まるのか説明した方がよい。	「(イ) 政策の基本方向について」に「基本的視点の検証」及び「7つの政策分野の検証」を追記しました。	P23	(基本的視点の検証)と(7つの政策分野の検証)として個々の検証を追記しました。	池本委員
5	実施計画の点検	数値目標について、適切ではなかった場合の記述が分かりにくい。	それぞれ適切ではなかったと判断した要点が分かるよう表記を統一しました。	P38 P59 P71 P75 P103	(例) エネルギー関連ベンチャーの事業化の促進を図る指標として、事業化件数を数値目標として設定し、項目としては適切でしたが、目標値を事業化に限定し、そこに至る試作化や製品化等の過程を評価していない面があったことから、目標値の捉え方としては、プロジェクトのねらいを反映できていない部分がありました。	山本(亮)委員

NO	関連項目	意見	対応	該当頁	点検報告書(案)	委員名
6	実施計画の点検	固定価格買取制度の見直しについて、そこから生じる課題(太陽光以外のエネルギーの振興に向けて)も記述した方がよいのではないか。	「今後に向けた検討事項」に課題を追記しました。	P35	また、再生可能エネルギー等の導入加速化にあたっては、固定価格買取制度の見直しの動きなどを踏まえつつ、県民や企業の参加を促進する観点で取組みを進める必要があります。	木村委員
7	実施計画の点検	主観的な指標が数値目標となっているものは政策との関連が分かりにくい。こうした施策をしたので県民の意識が高まったという説明が必要ではないか。	「目標項目の検証」欄に施策との関連が分かる記述を追記しました。	P41 P47 P55 P133	(例)津波避難訓練や普及啓発を通じて県民の津波に対する意識の醸成を図ることで、プロジェクトのねらいである「津波からいのちを守る」「迅速な避難の実現」につながることから、数値目標としては適切な指標となっていました。	山本(佳)委員
8	実施計画の点検	数値目標としては、県職員の女性採用率や女性の進学率といった指標もあるのではないかと。	今後、新たな数値目標を検討する場合には参考とします。	P67	-	池本委員
9	実施計画の点検	数値目標を見ると、神奈川発独創的技術の開発件数の達成が100%となっているので、その具体的な例を「主な取組みと成果」に記載したらどうか。	「主な取組みと成果」に具体例を追記しました。	P118	産業技術センターが実施する技術相談、依頼試験、受託研究、共同研究、技術アドバイザー派遣などにより中小企業が行う新技術・新製品開発(「緩まない耐震補強金具取り付けナット」の開発など)を支援しました。	山本(亮)委員
10	実施計画の点検	県内地域格差が激しい。県西地域においては、(ドイツの林産業を参考に)林業に力を入れたらどうか。	「今後に向けた検討事項」に林業に関する記述を追記しました。	P131	木材生産量の増加に向けて民有林における間伐材の搬出促進をより一層進めることで、資源循環による良好な森林を作り出していくことが求められています。	内田委員

NO	関連項目	意見	対応	該当頁	点検報告書（案）	委員名
11	実施計画の点検	目標①の「インターチェンジまでの距離5 km」について、何故こういった目標になっているのか違和感を感じるので説明を入れた方がよいのではないか。	「目標項目の検証」欄に記述を追記しました。	P133	新たな自動車専用道路及びインターチェンジの供用により、自動車専用道路沿線やインターチェンジの5 km以内に企業立地が進むなど、プロジェクトのねらいである「活力と魅力ある県土の形成」と「交通ネットワークの充実」の実現を反映する指標であることから、数値目標としては適切な指標となっていました。	山本(佳)委員
12	実施計画の点検	主要施策は、政策分野別・地域別の双方とも取組状況の記載にとどまっている。点検としては課題まで記載すべきではないか。	主要施策について、課題に関する表記を追記しました。	P147～		山本(亮)委員
13	点検報告書全体	分かりにくい言葉や一般的でない言葉には解説を記載すべきではないか。	解説や日本語による表記を追記しました。		(例) 合計特殊出生率・・・15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。1人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当	山本(佳)委員
14	点検報告書全体	各プロジェクトの「今後に向けた検討事項」は「今後に向けた課題」とした方が適切なのではないか。	「今後に向けた検討事項」につきましては、課題の列挙だけでなく、その課題解決に向けた取組みの方向性についても記載しているため、「検討事項」としています。		-	木村委員